

「第19回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」 表彰ビデオメッセージの収録を行いました



安藤財団では、「自然とのふれあいが子どもの創造力を豊かにする」との安藤百福・財団創設者の思いから、2002年より「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」をスタートしました。このコンテストでは、自然体験活動にとって大切な「企画力」の向上を図るために、全国から自然体験活動の企画案を公募し、選考の上、50団体に実施支援金を贈呈、さらに支援団体から提出された実施報告書を審査し、ユニークで創造性に富んだ活動を行った優秀団体を表彰しています。

今年度のコンテストは、外出自粛など新型コロナウイルスの影響により、子どもたちのさまざまな体験が難しくなり、応募数は前回の214団体と比べ124団体と半減しましたが、活動内容は大変充実していました。また、指導者の方々は、参加者の募集に苦勞されたり、3密を避けた活動を徹底したりして、大変苦勞の多い年であったと思います。

例年1月下旬に、カップヌードルミュージアム横浜で表彰式・講演会を開催していますが、今年は新型コロナウイルスの影響のため、表彰式・講演会は中止することにしました。代わりに受賞4団体には、賞状、目録と一緒に、ビデオメッセージを収録したブルーレイディスクをお送りし、お祝いのメッセージを伝えるという趣旨で、1月13日(水)にその収録作業を行いました。収録には、安藤財団 安藤宏基理事長、ご後援をいただいている文部科学省より総合教育政策局青少年教育室 平川康弘室長、コンテスト審査委員会 節田重節委員（NPO 法人日本ロングトレイル協会 会長）に出席していただきました。



安藤理事長から、「安藤財団は、長年子どもたちの自然体験活動の普及に取り組んでいます。子どもたちが体験活動を通じて出会うことができる自然のふしぎな発見や好奇心のめばえに大いに役立っていると思います。また自然を守ることの大切さを五感で感じてくれていると考えています。安藤財団は、子どもたちが自然の中で健やかに育つことを願って、これからも自然体験活動の支援に取り組んでいきます」とのあいさつがありました。

続いて、平川室長から、「文部科学省では、現在 GIGA スクール構想の実現に向け、児童生徒一人1台の PC 端末の整備等を行っています。しかし、こういう時代であっても、自然体験活動は、他者と協働し豊かな感性と創造力を養い、子どもたちの新しい価値を創造する力を育成するためには一層重要であると考えます」とのあいさつがありました。

節田委員の審査講評の後、特に優れた企画に対して、文部科学大臣賞と安藤百福賞（副賞 100 万円、チキンラーメン 1 年分）、優秀賞 2 件（副賞 50 万円、チキンラーメン半年分）を、平川室長と安藤理事長からカメラ越しに贈呈しました。



